

30年3月13日

軽井沢町議会
議長 市村 守 様

会派（議員）名
代表 押金洋仁
（報告書作成） 寺田和佳子

研修報告書

1 視察日程

平成29年9月9日（土）

2 研修先及び目的

（1）東京都角川文化振興財団 10:30 から 16:00

①金森俊朗と辻 直人との対談

②金森俊朗先生の授業

3 視察参加者

寺田和佳子

4. 研修内容

（1）東京都

◎研修目的

「子どもの可能性を信じる」をテーマにした対談
金森俊朗先生による2部構成による授業

◎研修内容

- ・現在の教育の問題点
- ・子どもの「生きる力」を引き出す教育とは
- ・子ども・親・教師・市民がともに学び合う教育について

◎考察

金森俊朗と辻直人が共同出版した「学び合う教室」についてのお話を伺うと、子供達の奥底にある潜在的能力を感じました。オランダの教育関係者から招聘されて授業をした時のエピソードは涙無くしては聞くことができないものでした。

そこには教育国であるオランダがさらに先を目指すために、もがいていることを感

じたのです。それほどまでに教育が大切だと考える国を改めて羨ましいと思いました。オランダは教育システムが日本とはかなり違いますし、授業料は半分程度ですが無償ではありません。その代わりしっかりした教育を保証しているのでしょう。

そのオランダがたどり着いた授業が日本にある世界遺産の様な金森教育です。金森教育は日本の中では「非主流」であるものでしたが、金森先生は50年続けている授業方法なのです。

後半は参加者のほとんどが教職に就く方であった中、教員たちの考え方が柔軟でなくなっていることへの指摘、その中では子供達は伸びたくても伸びきれないという警告。子供達は大人よりはるかに高い観察力・共感力・行動力があること。決して侮ってはいけない子どもの力を、生きるも殺すも周りにいる大人次第であると言うことを改めて感じるものでした。子供をしっかりみる、しっかり見届ける事ができていない大人が多い。共に親も、教員も学び育つ環境作りを教育現場で作ることの大切さを感じました。

では軽井沢ではどうしたら良いのか？を考えていかないといけません。

まず教育関係者が金森教育を学んでみる。それは教員であったり、教育委員会の職員や教育委員であってほしいと思います。

そしてさらに地域にいる方々が学ぶこと。これは保護者を含めた子供を取り巻く大人を指します。

そして、軽井沢の教育には何を求めていくのかを考え出すこと。それは共通のものでもなくとも良いのです。多くの方々が「教育は大切である」という事を再認識し、話し合うこと。軽井沢の環境を教育にいかにかに生かしていけるのかも含め、教育を築くのは周りの大人である事も自覚することが大切だと感じました。

そんな中で、子供達がカリキュラムに追われることなく、大いに遊びながら育つ環境ができれば嬉しいと思います。